

<平成 11 年度第 6 回「原子力円卓会議」資料>

アメリカ原子力事情視察と原子力を考える視点

平成 12 年 01 月 13 日

参議院議員 加納 時男

アメリカ原子力事情

○ 今年 1 / 2 (日) ~ 1 / 9 (日) 訪米

- ・ ネバタ州「ヤッカマウンテン」SF/HLW (使用済み燃料/高レベル放射性廃棄物) 最終処理処分研究施設、
- ・ ニューメキシコ州「WIPP (Waste Isolation Pilot Plant - TRU 廃棄物隔離 パイロットプラント)、
- ・ ケンタッキー州「USEC パデューカウラン濃縮工場」(United States Enrichment Corporation)

視察後、ワシントンにて DOE (エネルギー省)、NRC (原子力規制委員会) 幹部と懇談。

○ 「変化の胎動」を感じた。

- 米原子力の既設プラントの稼働は好調。コスト競争力大。
- 新規発注がない理由は、初期投資大、廃棄物問題未解決にある。
- しかし、認可手続きの合理化、次世代炉の開発等によりコスト競争力回復の見通しも。
- WIPP での廃棄物の受け入れ開始 (1999 年) は大きなインパクト。
- <NIMBY から PIMBY へ>
- ヤッカマウンテンが解決すると事態は大きく前進。
- 地球温暖化対策として原子力選択は今後の大きなテーマ。
- 関係者は一様に 10~15 年以内に原子力発電所新規発注を予測。

原子力を考える視点

(1) 科学技術に伴うリスクの評価

- リスクとベネフィットのバランス、リスクコントロール。

(2) 原子力のベネフィット

- ・ 「長期経済性」
- ・ 「エネルギーセキュリティ」
- ・ 「環境適合性」

（３）エネルギーの選択

< 4つの評価軸>

- ・「量」
- ・「質」
- ・「価格」
- ・「時間」
- いいところばかり、悪いところばかりはない。
- 「排除の論理」し「出羽守」はいかがなものか。
- 「エネルギー多神教」の提案

以上